

タイにおける仏教教育の新たな試みと王制ナショナリズム

総合教育研究部 文化学部門 矢野秀武

1, はじめに

●講演の概要

・3つの論点

- 1) 2002年以降のタイにおける新たな仏教教育の展開（2006年、2010年の調査）
- 2) 思想的源泉としての学僧パユットー師の仏教思想
- 3) 王制ナショナリズムや権威主義的な統治体制とのつながり（現在の問題）

・若者への教育効果の話ではなく、教育を行う大人の側の思考の枠組みや問題点に注目

●基礎情報

・タイ王国 東南アジア大陸に位置する

・人口6,609万人（2022年）

：仏教徒 約94%（上座部仏教が主流、大乘仏教はごく少数）

：ムスリム 約5%

・上座部仏教への誤解

：「小乗仏教」、出家者が社会から隔絶して修行、在家者は布施で功德を積むだけといった誤った（偏った）イメージ

・現在の主要産業は製造業

：主要な輸出品は機械・自動車（部品）、電機機器（部品）

：主要輸出国の第3位が日本 [外務省 2024]

・立憲君主制（国王を元首とする民主主義体制）

：軍と王室などの国王派の強い影響力

：政教分離の度合いが低い

* 国がサンガ（僧団）を支援

* タイ国サンガの管長（サンカラート：「僧王」）を任命する権限を持つ国王

* 公教育における上座部仏教の科目（必修科目）（ムスリムにはイスラーム教育）

・政教「非」分離体制の研究の意義

：政教分離の程度が弱い国々は、現在、世界各国の3分の2程度あると言われている [Fox 2008: 48,79]

：現在の様々な国を理解する点で重要なポイントの1つ [櫻井・外川・矢野 2015]

：日本の戦前の国家神道体制の考察に新たな視点を提供する可能性

2, 「仏教式学校プロジェクト」と「善徳プロジェクト」

●2002年以降の公教育における仏教教育の大きな変化

・背景

：新たな「国家教育法」（1999年）

* グローバル化時代への対応と伝統保持のナショナリズム教育

- * 2001年基礎教育カリキュラム、仏教学習内容の基本理念（2002年）
 - ⇒ 仏教式学校プロジェクト（2002年）、善徳プロジェクト（2006年）、道徳教育僧の学校派遣プロジェクト（2003年）
- 2001年基礎教育カリキュラム版の教科書（仏教の教科書など）

● 仏教式学校プロジェクト（2002年12月から）[矢野 2017: 153-178]

- ・目的 仏教の教えを教育現場に生かした学校づくり
- ・推進組織 教育省（基礎教育委員会事務局・教育運営イノベーション開発事務局）
 - ：行政（文化省宗務局・国家仏教庁）、民間（私立学校）、タイ国サンガ（僧団）との連携
- ・参加登録校の数
 - ：2006年に20,475校（公立学校全体の63.1%） 中学校が多い
 - ：2024年10月に22,047校
- ・活動概要
 - ：学校全体、もしくは参加希望学生・教員の活動
 - ：仏教知識の学習ではない（知識学習は以前から行われている）
 - * 仏教（知識）を学ぶのではなく、仏教で学ぶ
 - * あらゆる学習を仏教を用いて行う（戒定慧の三学の仏教実践として学ぶ）
 - ：仏教を基盤としたホリスティック教育
- ・事例
 - ：初歩レベル 学校での読経・瞑想、仏教儀式の作法、仏教道徳キャンプなど
 - ：応用レベル1 各教科を仏教の観点から考えてみる（一部だけに応用する実践が多い）
 - * 自己の欲望を満たすための学習ではなく、善行につなげる実践のための学習
 - * 社会科、美術、体育、部活動などに組み込む
 - 例：理科クラブで、手に障がいのある人が使えるPC用マウスの開発
 - 美術の時間に仏法用語や資源再利用などの目標を描いたポスターを作成して学校に貼る
 - ：応用レベル2 社会集団レベルの問題を解決する実践
 - * 学校を中心に、寺院・家庭・地域社会のネットワークを再活性化
 - 例：近隣村落での生活知を学生が集めて印刷し、村人と共有
 - * 問題解決がうまくいかなくても結果に過度に拘らない柔軟さ
 - 失敗すればまた一から始めればよい、自己の善き発展が主目的

● 善徳プロジェクト（2006年から）[矢野 2017: 179-198]

- ・仏教式学校の応用レベル2の活動を、国王崇敬と結びつけ、全国コンテスト化（王室からの表彰）
- ・現在の主要運営組織 教育省とマハーチュラーロンコーン仏教大学
 - ：王室、私立ルン・アルン学校の協力
- ・活動規模
 - ：初年度（2006年度）の参加応募数1000件以上。全国的な応募
 - ：2007年度の応募数は1万件以上
- ・活動概要
 - ：学校単位で希望する学生のグループが参加
 - ：学生自身で計画書作成・面接準備、活動助成金の管理
 - ：学校を中心に、寺院・家庭・地域社会のネットワークを再活性化

： 国王に善行（社会問題の解決）を捧げる

： 実践例

* 寺院に放置された犬や猫の世話

* 性暴力被害や妊娠・中絶を減らすための女子学生による活動

* タイ南部のテロ行為被害者への支援活動を行う仏教徒とムスリム学生の共同活動

3、 仏教教育への学僧パユットー師の影響

● 民間の仏教教育運動から

・ 「仏教式学校プロジェクト」と「善徳プロジェクト」の形成背景

： 私立学校における仏教式教育の試みから始まった（1997年頃から）。[矢野 2017: 170-175]

： その関係者（出家者、在家者）を通じて、行政プロジェクトに導入

● パユットー師の上座部仏教思想の影響

・ 私立の仏教式学校の運営者に影響を与えた、タイの学僧たちの思想

： 特に パユットー師の上座部仏教理解の影響 [矢野 2017: 170-175]

・ パユットー師（ポー・オー・パユットー 1938年～）

： 現代タイの著名な学僧、タイ仏教界のご意見番

： パーリ三蔵聖典や註釈書に熟達し、現代社会の文脈を踏まえた解説も行う

* 三相（無常・苦・無我）や縁起といった「自然」（「存在」）の理解を踏まえながら、善き生き方・自己の善き発展を説く [パユットー 2008、ホーム 2023]

* 出家者だけでなく在家者の実践も重視

* 2001年基礎教育カリキュラム版の 新たな仏教教科書の内容にも反映 [矢野 2017: 214]

* 開発僧（村落生活の向上・改善を仏教的観点から支援する僧侶）など、オルタナティブな発展を目指す運動にも影響 [スラック 2001: 73-74]

4、 王制ナショナリズムや権威主義的統治体制との接続

● 仏教式学校の諸プロジェクトに見られる「ねじれ」

・ 現在のタイに見られる王制ナショナリズム批判者への弾圧といった問題を素通り、あるいはそれを増幅

・ 国の教育プロジェクトであることの限界

： 仏教教育に組み込まれる王室崇敬

* 「仏教式学校プロジェクト」では、高度なレベルの活動に、王室からの助成金の下賜が行われるようになった（2015年から助成金付与）

* 「善徳プロジェクト」では、国王に善行を捧げ、王室から栄誉を与えられる

： 軍を含む王党派による権威主義的な政治体制を維持

： 王室不敬罪の政治利用の問題に触れない

● 若者による王制改革要求と、王室不敬罪による検挙

・ 2020年8月 王制改革を求める学生デモの広がり（大学生、中高生も）。[玉田 2020]

・ 2021年2月 前年のデモにおける王室不敬罪の容疑で、弁護士や学生ら4名が拘束。彼らの釈放と不敬罪廃止を求めるデモが拡大 [高橋 2021]

・ 2021年11月 王制改革要求は体制転覆になるとの憲法裁判所の判決 [玉田 2021: 2] 前年のデモ

での逮捕者のうち3名が体制転覆行為の憲法違反となる

- ・2024年5月 王室に関するアンケート実施で不敬罪となり逮捕された28歳の女性が、不敬罪見直しを求めるハンガーストライキを刑務所内で実施し、5月に死亡 [NHK 2024]
- ・2024年8月 若い世代を中心に王制改革（国会での法改正）を掲げて（2023年5月に）第一党になった政党に対し、王制改革は違法行為といった司法の政治的判断により解党命令の判決 [玉田 2024: 1]

●仏教式学校の諸プロジェクトの矛盾

- ・パユットー師の思想に共鳴した民間の宗教的・教育運動の拡大
- ・王室崇敬との接続、行政レベルで教育プロジェクトとして制度化
- ・プロジェクト参加世代の若者による王制改革運動
 - ：2016年の国王の代替わりも影響
- ・政治化した司法の判断と不敬罪での取り締まり
- ・この問題に触れない仏教式学校プロジェクトの関係者

●仏教思想・実践から意図せぬ暴力化へ

- ・個人レベルでの善き思い・善き実践が、社会レベルでの暴力につながり、苦しみを生み出していくこともある。
- ・無常・苦・無我、縁起の思想が、タイの近現代的な「自己」イメージの形成にどう影響しているのか。それが王室崇敬、そして権威主義的な統治につながるのは、なぜなのか。
 - ：他にどういった選択がタイで可能なのか。

●政治化した司法の判断（王党派の体制維持）で、学術研究が脅かされる恐れ

- ・2024年8月 タイの閣議で「宗教、文化、伝統習俗、人倫をめぐる問題を孕む学術研究の基準と倫理規範に関する政令」が承認。
 - ：倫理に反すると判断される研究に対し、中止を命じることができるようになった [玉田 2024:11]。

◆参考文献

- 外務省 2024 「タイ王国 (Kingdom of Thailand) 基礎データ」(令和6年5月27日)
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html> (閲覧日2024年11月9日)
- 櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編 2015 『アジアの社会参加仏教 政教関係の視座から』北海道大学出版会
- スラック・シワラック(野田真里訳) 2001 「仏法共同体原理とオルタナティブ発展の展望」西川潤・野田真里編『仏教・開発(かいほつ)・NGOータイ開発(かいほつ)僧に学ぶ共生の智慧ー』新評論、65-83頁。
- 高橋勝幸 2021 「不敬罪起訴に挑むタイの民主化運動」『タイ国情報』第55巻第2号 52-61頁。
- 玉田芳史 2020 「若者の政治改革要求と君主制」『タイ国情報』第54巻第6号 1-16頁。
- 玉田芳史 2021 「政党をめぐる新展開 危ない冒険」『タイ国情報』第55巻第6号 1-16頁。
- 玉田芳史 2024 「首相を失職させ、第一党を潰す司法 危うい倫理規範乱用」『タイ国情報』第58巻第5号 1-14頁。
- パユットー(ポー・オー・パユットー)(野中耕一訳) 2008(原著2001年)『仏法 テーラワータ仏教の叡智』サンガホーム・プロムオン 2023 「現代タイ仏教の基盤を支えるポー・オー・パユットー師の教えと姿勢に学ぶ 智慧を開発し、智慧を与える者として」『サンガジャバンプラス Vol.02 慈悲と瞑想』サンガ新社、280-301頁
- 矢野秀武 2017 『国家と上座仏教 タイの政教関係』北海道大学出版会
- Fox, Jonathan 2008 *A World Survey of Religion and the State*. Cambridge University Press.
- NHK NEWSWEB 2024 「タイ 女性活動家が死亡 不敬罪の見直しを訴え刑務所でハンスト」(2024年5月15日)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240515/k10014449361000.html> (閲覧日2024年11月9日)